

対象年度		令和 3年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート											
事務事業名		救急医療・市民の集い事業						予算事業名		救急の日・市民のつどい事業費					
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	消防法、医療法					
				04	01	02	2101	経常経費							
総合計画体系		1ともに支えあい、安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)						事業の区分		主要事業					
		1-1健康で安心して暮らせる保健福祉の充実（健康・医療）													
		③地域医療体制の充実						担当課係等		健康増進課					
		1救急医療体制の整備													
事業期間		継続（平成15年度～ 年度）													
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
市民が、救急医療及び救急搬送について正しく理解し、救急に関する意識の高揚を図る。								1982年に厚生省が、救急業務や救急医療について市民の理解と認識を深め、救急医療関係者の士気を高める日として「救急の日」を制定した。国では、厚生労働省、消防庁、日本救急医学会、財団法人日本救急医療財団の共催により、救急の日イベントを実施している。							
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】								【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】							
救急の日（9月9日）前後に、救急医療並びに救急蘇生法について学ぶ「救急の日・市民の集いイベント」を開催する。								市民							
【イベント内容】															
第1部 医師による救急医療の講演 第2部 救急蘇生法（AED取扱い含）の実技															
								【事業をとりまく環境の変化】							
								東日本大震災の影響もあり、平成23年度からの参加者は、200人～250人の市民が参加しておりニーズは高い。 平成27年度は、関東・東北豪雨により、イベントは中止となった。また、市内AEDの設置事業所等は、年々増加していることから、本イベント開催の意義は大きい。							
【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】				【令和 5年度 事業内容】							
【救急の日・市民の集いイベント】				【救急の日・市民の集いイベント】				【救急の日・市民の集いイベント】							
第1部 医師による救急医療の講演				第1部 医師による救急医療の講演				第1部 医師による救急医療の講演							
第2部 救急蘇生法（AED取扱い含）の実技				第2部 救急蘇生法（AED取扱い含）の実技				第2部 救急蘇生法（AED取扱い含）の実技							

		R01年度	R02年度			
財 源 内 訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他の	0	0			
	一般財源	146	156			
歳入計（千円）		146	156			
歳 出 内 訳	節（番号＋名称）	金額（千円）	金額（千円）			
	10 需用費	94	95			
	11 役務費	8	11			
	13 使用料及び賃借料	44	50			
歳出計（千円）（A）		146	156			
伸び率（％）			6.84			
総合計画５１ページ 予算書９８ページ						
備考						

令和元年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R01年度	R02年度	R03年度
活動 指標	救急の日イベント回数	回	目標	1.00	1.00	1.00
			実績	1.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	救急の日イベント参加人数	人	目標	260.00	300.00	300.00
			実績	203.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	初期救急についての理解を広く市民に普及させるために必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	C 見直す必要がある	市医師会、消防署、市が共催で行っているが、より効果的な開催のために見直しも必要である。
	手段の妥当性	C 見直す必要がある	年1回イベントによる啓発でな普及効果が低いと考える。
効率性	コストの効率性・人員効率	C 改善の余地はある	経費、人員ともに、市医師会、消防署、行政と分担しているが、ボランティアや地域住民の運営参加等も検討する余地はある。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	イベント案内の通知は、AED設置事業所に送付しているため、一般参加者が少ない。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	イベント参加者は毎年200人前後であるが、参加者の固定化、初期救急の知識（心肺蘇生法やAED使用方法）普及率を正確に確認することができない。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	心肺蘇生法やAED使用方法を実施する場としては定着しているが、救急医療について正しく理解し行動するまでには至っていない。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
イベントとしての「救急の日 市民の集い」は定着しているが、救急医療について正しく理解し行動するまでには至っていない。毎年、画一的な内容であるため、より効果的な方法となるよう検討する必要がある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
広く市民へ普及するためには現状を見直し、医療や防災等の視点から検討する必要がある。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ■ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置 方向性の具体的内容 救急医療についての知識及び実技の普及は重要であるが、より効果的で効率的な事業展開ができるよう、関係部署、市医師会、消防署と協議し事業全体の方向性を検討する。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置 企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。関係機関等との調整により進める。